

令和6年6月4日

保護者の皆さんへ

しらぎく幼稚園
園長 東海林 肇

園長だより「かけはし」

新しい年度が始まり、2ヶ月が過ぎました。5月は朝、寒い日があったりしましたが、日中は25度を超える夏日が続いたりする天候でした。長期予報によると6月は平年より気温が上がるようです。また梅雨も始まって体調を崩しやすい季節になりますので、子どもたちの様子を見ながら、水分補給も怠らず体調に気を付けて保育をしていきたいと思っております。ご家庭でも体調管理に気を付けてお過ごしください。そして6月20日からはプールが始まります。学年だよりなどを確認して準備をしていただければと思います。よろしくお祈りいたします。

「現在の小学校のプール事情」

学校にプールがあるというのは、わたしたち日本人からすればとても普通のことでしょう。ところが、外国人からすると、学校にプールがある国はほとんどないとのこと。海外では、そもそも水泳の授業がないところも多く、日本の学校にプールがあることは信じがたい光景のようです。実際のところ日本の学校にはどれくらいプールが併設されているのでしょうか？文部科学省によれば、2018年の頃には小学校94%、中学校73%もの学校にプールが設置されていました。そもそも学校のプールが普及したのは、1964年の東京オリンピックを前にした1961年、スポーツ振興法が制定され、国が学校のプールに建築補助金を出したことがきっかけと言われています。日本では、子どもの習い事でも水泳は上位に入っていて、それにともない幼稚園、保育園でもプールが設置されているところが増えていきました。ところが現在、学校のプール施設自体がなくなりつつあると報道されています。実は50～60年前に設置された学校のプールは、どこも老朽化という大きな課題を抱えています。そのため、「学校プールの廃止」という選択肢をとる自治体も増えてきているようです。実際にどの程度なくなってきているのか文部科学省が実施した調査によれば、先ほどの2018年から3年後の2021年の小学校屋外プールの設置率87%（7%減）、中学校は65%（8%減）という結果を示し、たった3年間で学校の屋外プール設置率が急減していっています。そんな中、尾張旭市では市内9校ある小学校のうち今年度は6つの小学校が校外の屋内温水プールを利用しています。そして来年度には9校全部が屋内温水プールを利用することになる予定です（他市については情報が入ってこないのではありません）。学校からプールへの移動で時間はロスしますが、天候に左右されることなくそして6月7月に限定されず授業を行うことができ、雷注意報や熱中症などの心配もありません。また、教員ではなく専門性の高い指導員の水泳指導が受けられるということで、肯定的な声も多いようです。腰洗い槽、目洗い器（知らないでしょうね）あの時代ははるか遠くに。

